

せきせいしょうこ
石西礁湖自然再生協議会について

石西礁湖は、石垣島と西表島の上に位置し、東西に約20km、南北に約15kmの広さを持つ日本最大規模のサンゴ礁海域。400種を超える造礁サンゴが分布する種の多様性の高い海域であり、沖縄本島等、高緯度域へのサンゴ幼生の供給源として、我が国のサンゴ群集を支える重要な役割を果たしていると考えられている。

しかし、1998年以降サンゴ群集の大量死の原因となる広域的な白化現象が頻繁に見られるようになったことに加え、2000年以降オニヒトデの大発生による食害が広範囲で見られるなど、サンゴ礁生態系の衰退が確認されている。環境省は平成 14 年度から、石西礁湖及びその周辺海域において生態系の観点から詳細な調査を実施。専門家等の知見を踏まえ、平成 17 年 3 月には「石西礁湖自然再生マスタープラン」を作成した。

平成18年2月に自然再生推進法に基づく「石西礁湖自然再生協議会」を設立。
(優れたサンゴ礁を保全することに加え、赤土流出への取り組みを進めるなど陸域からの環境負荷を少なくするとともに、サンゴ群集の修復などを通じてのサンゴ礁生態系の再生を検討。)

第 1 回自然再生協議会 (平成 17 年 12 月 2 日)

- ・ 協議会の設立
- ・ 全体構想の作成方法について協議

第 2 回自然再生協議会 (平成 18 年 8 月 4 日)

- ・ 全体構想 (案) の協議

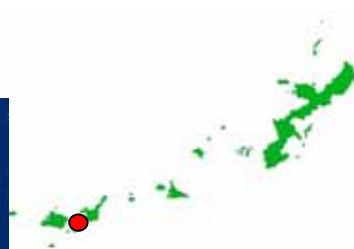
第 3 回自然再生協議会 (平成 18 年 11 月 17 日)

- ・ 全体構想 (案) の協議

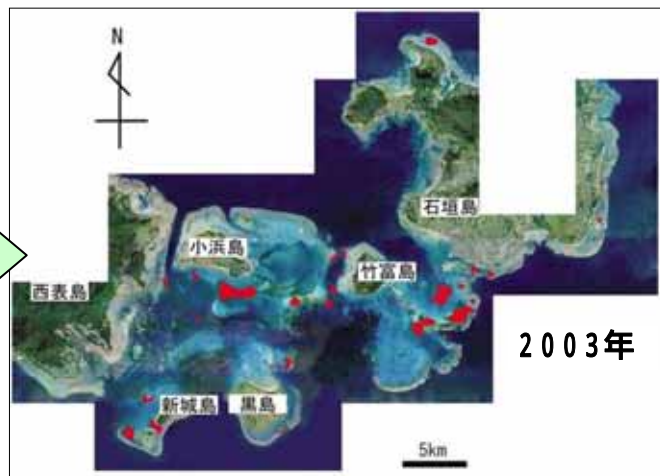
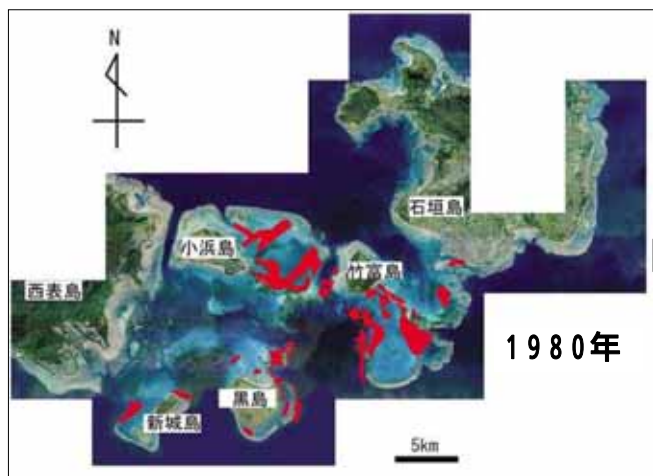
第 4 回自然再生協議会 (平成 19 年 3 月 2 日)

- ・ 全体構想 (案) の協議

せきせいしょうこ
石西礁湖自然再生協議会



自然再生の対象となる区域(協議会規約より)



石西礁湖のサンゴの衰退

図中の赤地域: 枝状ミドリイシ高被度地域



オニヒトデの大量発生



海水温の上昇に起因する白化現象



赤土流出等、陸域からの環境負荷

たつくし

竜串自然再生協議会について

高知県土佐清水市に位置する足摺宇和海国立公園竜串海中公園地区は、黒潮暖流の影響を受け、高緯度にもかかわらずイシサンゴ類をはじめとした造礁サンゴが高被度に分布し、温帯性や熱帯性の多様な海中生物が生息している。しかし、近年、海域での濁りの発生や水質の悪化などが原因とみられるサンゴ群集の衰退が徐々に報告されるようになり、さらに、平成13年9月には、高知県西南地域で局地的な集中豪雨が発生し（西南豪雨）、上流域から大量の土砂などが竜串湾に流れ込み、サンゴ群集や海中生物などに大きな被害が生じた。

環境省では平成15年より、地域住民代表、関係団体、専門家、関係行政機関などからなる「竜串自然再生推進調整会議」を設置し、サンゴ群集衰退の原因究明や再生に向けた取り組みなどについて検討した。

平成18年9月に自然再生推進法に基づく「竜串自然再生協議会」を設立。

（竜串湾のサンゴを再生するため、海底に堆積した泥土の除去や、森林や河川などからの土砂流出、周辺地域からの生活排水など、流域からの様々な環境負荷を抑制することを検討。）

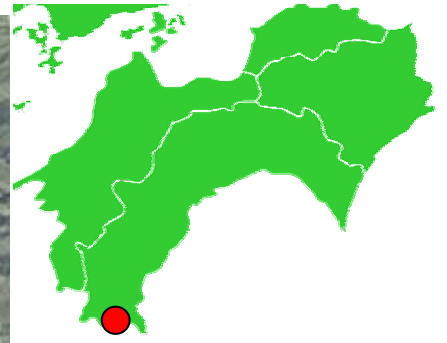
第1回自然再生協議会（平成18年9月9日）

- ・ 協議会の設立

第2回自然再生協議会（平成19年1月17日）

- ・ 全体構想（原案）の協議

たつくし
竜串自然再生協議会



自然再生の対象となる地域（協議会設置要綱より：約8千ha）



下層植生が発達していない
ヒノキ林地の林床（西の川流域）
（間伐等の森林整備を検討）



植生の回復が見られない崩壊地
（西の川流域）
（治山による植生復元を検討）



降雨時の西の川と三崎川の合流点の状況
（左：西の川、右：三崎川本川）



衰退したサンゴ群集



海底に堆積した泥土
（吸引による泥土の除去）